

2020 年度 文部科学省委託事業

就職氷河期世代を対象とした教職に関するリカレント教育プログラム

2020 年度 昭和女子大学  
教職リカレント教育オンラインプログラム  
委託事業成果報告書

## はじめに

昭和女子大学では、教員免許更新制度と更新講習が始まった 2009 年度から、大学の社会貢献活動の一環として、講習を実施している。その実績と経験を活かし、今年度、「就職氷河期世代を対象とした教職に関するリカレント教育プログラム(更新講習型プログラム)」「(教職リカレント教育オンラインプログラム)」に取り組んだ。

プログラムの目的は、文部科学省の公募要項にも示されているように、いわゆる「就職氷河期」世代と呼ばれる人の教職への就職支援である。近年教員採用試験の応募倍率が低下している一方で、応募資格の年齢要件の緩和や、社会人経験の勘案などが行われ、対象世代が教職に就く道が広くなりつつある。また学校側も多様な人材や即戦力を求めている。そのような点から、本プログラムにより、教職を志望する人への支援ができることに意義を認め、取り組みを行った。

実施の形態はすべてオンラインであり、動画視聴とリアルタイム授業を適宜組み合わせるものとした。これは「コロナ禍で実施」という以上に、オンラインの特性を積極的に活用することを目指した。オンラインであれば、地理的な制約がなくなることに加え、受講生は公私とも多忙であり、定期的に対面授業を受けることが困難であるため、週末などの可能な時間に視聴できる動画のメリットが大きいと判断した。一方で、講師と受講生、受講生相互の直接的な対話も必要であるため、必要に応じてリアルタイム講座を行った。さらには、適宜質問を受け付けることも行い、双方向の講座となるようにした。

講座の実施にあたり、留意した点は以下の通りである。

第一は、既に中高の教員免許を持っている受講者が、これからの学校教育現場で教師として働くために必要な知識・技能がどのようなものであるかを、明確に把握できるようにすることである。本プログラムの本体部分は「更新講習」であるが、現在の教育政策や学校教育の動向、とりわけ「アクティブ・ラーニング(主体的・対話的で深い学び)」「カリキュラム・マネジメント」「チームとしての学校」「社会に開かれた教育課程」について、各々の意義と課題が理解できるよう努めた。また到達目標としては東京都の「東京都公立学校の校長・副校長及び教員としての資質の向上に関する指標」のうち、「教諭(基礎形成期)」を用いて、現場で必要とされる最低限度の実践的指導力を獲得することとした。

第二には、本プログラムの学習自体が「アクティブ・ラーニング」となるようにすることである。そのために講座の内容を実践的・実地的なものとすると同時に、課題や試験についても、受講生自身が自らの意見や見解を述べるものとした。

第三は、更新講習に加えて、「授業実践特講」と「教員採用試験対策特講」を設けることである。前者は模擬授業実践である。リアルタイム講座により、学習指導案の作成法を学び、それに基づき実際に模擬授業を行った。限られた時間ではあるが、教材研究・学習指導案作成・授業実践を通して、どのような技能や態度が必要かを理解することを目的とした。後者は、資料と模擬試験添削による、採用試験準備である。現実問題として、採用試験準備の学習は不可欠であり、ここでは「教職教養」を扱った。

本プログラムにより、受講生が教職への道を切り拓くことを心から願うものである。

令和 3 年 1 月

昭和女子大学  
総合教育センター教授 現代教育研究所 所長  
友野 清文

## 目 次

1. 事業の概要.....	4
2. 実施内容 .....	7
1 受講人数.....	7
2 実施期間.....	7
3 講座一覧.....	7
4 講座の実施方法.....	8
5 講座詳細.....	8
6 プレミーティング.....	10
7 リアルタイム講習.....	11
8 その他.....	14
3. 事業の成果と評価.....	16
1 受講調査.....	16
2 事業の成果.....	17
3 事業の評価.....	20
4. 実施により得られた効果・課題・改善点等.....	24
1 運営面での効果・課題・改善点等.....	24
2 講師視点の効果・課題・改善点等.....	25
5. 広報.....	26
1 広報活動の概要.....	26
2 広報先一覧.....	26

# 1. 事業の概要

## 1 事業名

昭和女子大学 教職リカレント教育オンラインプログラム

## 2 事業の概要

中高の教員免許状を持つものの教職への道を諦めざるを得なかった就職氷河期世代のうち、教員採用試験の受験や臨時的任用リストへの登録など学校現場で勤務する意思がある者に対象者を限定し、教員が担うべき主たる職務の学習指導と生徒指導にフォーカスを定め、これからの時代に求められる資質・能力を培う実践的指導力の基礎を集中的に育成するためのアクティブ・ラーニング型の講座(更新講習を含む)を提供した。

## 3 趣旨・目的

2020 年度から 3 年間、政府主導で就職氷河期世代活躍支援が行われる。その1つで、文科省が公募の委託事業として教員免許状を持つものの教職への道を諦めざるを得なかった者等を対象としたリカレント教育プログラムを開発し、その意欲・能力をいかして学校現場で活躍できるように支援することとなり、本学が採択され実施した。  
・文部科学省「就職氷河期世代を対象とした教職に関するリカレント教育プログラム事業の公募について」  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/boshu/detail/mext\\_00033.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/boshu/detail/mext_00033.html) (2021.1.21 閲覧)

## 4 運営体制

### (1)実施団体

学校法人 昭和女子大学

### (2)代表者

理事長 坂東 真理子

### (3)契約者

学長 小原 奈津子

### (4)事業実施責任者

副学長 吉田 昌志

### (5)事務連絡担当者

教育支援課長 森本 力

### (6)事務担当者

教育支援課臨時職員 徳江 舞美(今回の事業実施のため、臨時採用 2020 年 6 月～2021 年 2 月)

## 5 実施体制

### (1)運営統括

教員免許状更新講習運営委員会委員長・教務担当副学長 吉田 昌志

### (2)カリキュラム統括

教員免許状更新講習運営委員会副委員長・教務部長 清水 裕

(3)更新講習統括、更新講習担当教員、模擬授業指導教員

総合教育センター教授・現代教育研究所 所長 友野 清文

(4)試験演習統括、更新講習担当教員、模擬授業指導教員

総合教育センター准教授・現代教育研究所 副所長 緩利 誠

(5)オンライン講義統括、更新講習担当教員、模擬授業指導教員

総合教育センター准教授・現代教育研究所 所員 青木 幸子

(6)事務担当・講習運営サポート

教育支援課 徳江 舞美

## 6 事業の成果目標

本学が所在する東京都が設定した「東京都公立学校の校長・副校長及び教員としての資質の向上に関する指標」のうち、「教諭(基礎形成期)」を学習成果測定の指標とし、その達成の程度をもって事業成果を測定する。現場で必要とされる最低限度の実践的指導力を保障する。

開講講座数は、教員免許状更新講習は「必修領域」1・「選択必修領域」1・「選択領域」3の5講座、その他必要な講座として「授業実践特講」1、「教員採用試験対策特講」1の2講座、計7講座を開講した。

受講者数の目標は80名とする。受講完了率は80%、そのうち、採用試験合格率は25%、臨時的任用を含む就業率は全体で35%とする。

## 7 具体的な内容・取組方法

### I 受講対象者

中高の教員免許状を持つものの教職への道を諦めざるを得なかった就職氷河期世代のうち、プログラムの受講後に教員採用試験の受験や臨時的任用リストへの登録など学校現場で勤務する意思がある者、上限80名を受講対象者とする。受講料は6万円とする。なお、公募要領に定められた要件に該当する者は受講料を半額に減免する。

### II 講座内容等

教員が担うべき主たる職務の学習指導と生徒指導にフォーカスを定め、これからの時代に求められる資質・能力を培う実践的指導力の基礎を集中的に育成するためのアクティブ・ラーニング型の講座を用意する。所属教員の勤務外となる日曜日に収録等を行い、実施する。具体的には次の通りである。

(1)教員免許状更新講習に関わる講座(30時間の短期集中によるパッケージ)

- ・「必修領域」6時間:オンラインで提供【担当:友野清文・青木幸子・緩利誠、いずれも昭和女子大学中高教職課程担当者、以下同じ。】
- ・「選択必修領域」6時間:オンラインで提供「育成を目指す資質及び能力を育むための主体的・対話的深い学びの実現に向けた授業改善」【青木幸子・緩利誠】
- ・「選択領域」計18時間 ①～③ 各6時間:オンラインで提供
  - ① 教育相談の理論と実践【青木幸子】
  - ② カリキュラムマネジメントと社会に開かれた教育課程の実現【緩利誠】
  - ③ 学校における組織的対応とチーム学校の実現【友野清文】

(2)その他の講座等

- ・「授業実践特講」計 12 時間:オンラインで提供:受講生が授業を企画・実践し、それについてのフィードバックとブラッシュアップを実施【友野清文・青木幸子・緩利誠、クラス分け】
- ・「教員採用試験対策特講」担当教員の指導の下で各受講生が学習計画を立て、教員採用試験対策に実績のある通信講座を教材とし、試験演習を行う。【友野清文・青木幸子・緩利誠】

8 募集期間

2020年7月16日(木)～2020年8月31日(金)

【表 1 募集期間の概要】

2020年			
5月	6月	7月	8月
広報・募集に向けた準備 (組織体制やシステム構築など)の開始	広報・募集の開始	→	
免許状更新講習の 開設申請	関係諸機関への 協力要請	申込受付開始	→
			受講者確定

## 2. 実施内容

### 1 受講人数

8名(うち男性1:女性7、40歳代1名、45歳代5名、50歳代2名)

### 2 実施期間

2020年9月7日(月)～2021年12月24日(木)

※なお、教員採用試験対策特講は2021年2月28日(日)まで継続

【表2 実施期間の概要】

2020年				2021年
9月	10月	11月	12月	～2月
必修領域実施	選択必修領域実施	選択領域実施	→	
			授業実践特講実施	
	教員採用試験対策 特講実施	→		

### 3 講座一覧

#### I 教員免許状更新講習

##### (1) 必修領域「教育の最新事情 2020」

受講期間 2020年9月7日(月)～9月25日(金)

概要 教員に求められる知識・態度を習得する。

##### (2) 選択必修領域「育成を目指す資質及び能力を育むための主体的・対話的深い学びの実現に向けた授業改善」

受講期間 2020年10月5日(月)～10月23日(金) ※2020年10月18日(日)リアルタイム講習

概要 これまでの授業の問題点や改善点を受講者自身の経験を通して紐解きながら、これからの時代にふさわしい学びのあり方やつくり方を考えていく。

##### (3) 選択領域「学校における組織的対応とチーム学校の実現」

受講期間 2020年11月2日(月)～12月6日(日)

概要 「チーム学校」のねらいと課題を知ることを通して、教員のあり方を考究する。

(4) 選択領域「教育相談の理論と実践」

受講期間 2020年11月2日(月)～12月6日(日)

概要 スクールカウンセリングと生徒への援助の技術を学習・習得する。

(5) 選択領域「カリキュラムマネジメントと社会に開かれた教育課程の実現」

受講期間 2020年11月2日(月)～12月6日(日) ※2020年11月15日(日)リアルタイム講習

概要 カリキュラムづくりの方法を取り上げ、一部のプロセスを体験し、要点の理解を図る。

II 教員採用試験対策特講

受講期間 2020年10月5日(月)～2021年2月28日(日)

概要 教員採用試験対策に実績のある通信講座「じぶんゼミ 合格ワンパック講座+教職オンライン講座 教職教養コース2022年版」、通信講座「教職オンライン講座」を教材とし、採用試験演習を行う。

III 授業実践特講

受講期間 2020年12月6日(日)～12月20日(日)

※2020年12月6日(日)、12月20日(日)リアルタイム講習

概要 学習指導案の作成や模擬授業を行い、指導技術の向上を図る。

4 講座の実施方法

インターネットを利用したオンライン講座を、次のいずれかの方法で実施。資料は郵送で事前送付した。

タイプ A: 動画配信システム(システム名:Platon)を利用した動画視聴

該当する講座: 必修領域、選択領域「学校における組織的対応とチーム学校の実現」、  
選択領域「教育相談の理論と実践」

タイプ B: タイプ A を基本とし、ビデオ会議システム(システム名:Zoom)を利用したリアルタイムオンライン受講

該当する講座: 選択必修領域、選択領域「カリキュラムマネジメントと社会に開かれた教育課程の実現」、  
授業実践特講

5 講座詳細

I 教員免許状更新講習

(1) 必修領域「教育の最新事情 2020」

3名が分担して担当し、これからの教育を担う上で必要とされる基礎的知識を示し、受講生自身が考えていくものにした。動画による講義であったが、エクササイズや演習も採り入れ、主体的に学べるよう工夫を行った。最初のセッションで受講生の不安も大きかったが、質疑応答などもする中で、これからの学習への意欲が高まっていった。



(2) 選択必修領域「育成を目指す資質及び能力を育むための主体的・対話的深い学びの実現に向けた授業改善」

主体的・対話的で深い学びとはどういった学びのことを指すのかについて、具体的かつ実践的なイメージを形成することができた。また、そうした学びを創っていく舞台裏に迫ることで、単元／授業デザインの基本的で具体的なポイントの理解を促すことができた。協働的な授業づくり演習にも挑戦してもらい、その結果、教科の垣根を越えた協働の重要性や必要性、その可能性も体感してもらうことができた。

(3) 選択領域「学校における組織的対応とチーム学校の実現」

「チーム学校」は 2017 年の中教審答申で示された言葉であったが、考え方としては目新しいものではなく、学校内外での様々な人々の協力が必要であるというものである。講座では学校内の協働と学校外との協働(学校運営協議会・地域学校支援本部・学校評価など)の両面における現状・政策の動向・今後への課題を具体的に示した。受講生が、今の学校の様子を知る一つの機会となった。

(4) 選択領域「教育相談の理論と実践」

今学校現場で問題となっている「いじめ」「不登校」だけでなく、思春期特有の心の動きを、様々な事例を通して考えていくことで、受講者すべてが、自分事として、さまざまな問題を捉えることができようになると述べている。また、チーム学校として取り組むこと、ピアサポートをはじめとする「予防的教育ワーク」を行うために、「アクティブリスニング」の重要性をワークによって実感できた受講生が多かったことも成果と考えたい。

(5) 選択領域「カリキュラムマネジメントと社会に開かれた教育課程の実現」

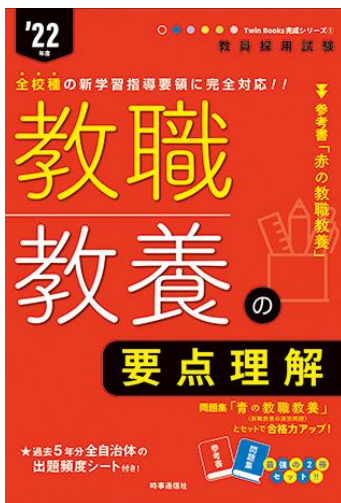
国内外の代表的な動向を踏まえたうえで、今求められているカリキュラムのあり方、さらにはそのつくり方・動かす方について、具体的な実践例に基づきながら受講者の理解を促すことができた。また、教科等横断の視点を組み込んだカリキュラムづくり演習にも挑戦してもらい、その結果、カリキュラムを構造的に捉え、いかに相乗効果を生み出すかについて、その基本的で実際的な方法を獲得してもらうことができた。

## II 教員採用試験対策特講

教員採用試験対策に実績のある通信講座「じぶんゼミ 合格ワンパック講座＋教職オンライン講座 教職教養コース 2022 年版」を教材とし、試験演習を行った。教員採用試験対策に実績のある時事通信出版局が提供する、教員採用試験合格に必要な教材と情報をすべて集めた講座であり、参考書と問題集の内容に即した添削付きのフォローアップテストや、弱点補強テストで確実に得点力を高めることができる。さらに、自身のペースで学習する「じぶんゼミ」と「教職オンライン講座」(全 20 回)視聴の組み合わせで、効果的な学習対策を行った。

本学担当講師【友野清文・青木幸子・緩利誠】は、教員採用試験全般に対する質問に随時回答するサポート体制を整え、プログラム終了後も引き続き受講者に助言・指導を実施する。

【図1 教職教養の要点理解】



【図2 フォローアップテスト】



【図3 志望自治体の過去問(3年分)】



### III 授業実践特講

2日間(各々3時間)で行った。第一日は学習指導案作成についての講義の後、各自で実際に作成を開始した。第二日は、当日までに指導案を完成させ、三つのグループ(教科別)に分かれての模擬授業を行った。限られた時間ではあったが、授業の準備と実践に求められる知識・技能・態度がいかなるものであるのかについて、理解を進めることができた。

### 6 プレミーティング

初回のビデオ会議システムを利用したリアルタイムオンライン受講前に、ビデオ会議システムの使用確認と本学担当講師および受講者同士の顔合わせを目的としたプレミーティングを実施した。希望者のみで任意参加としたが、受講者全員が参加した。受講者同士で自己紹介と共に講習に参加した目的を共有することで、学習意欲の向上を図った。

担当講師 友野 清文(録画メッセージのみ)、青木 幸子、緩利 誠  
運営サポート 徳江 舞美

【図4 プレミーティング】



## 7 リアルタイム講習

### (1) 概要

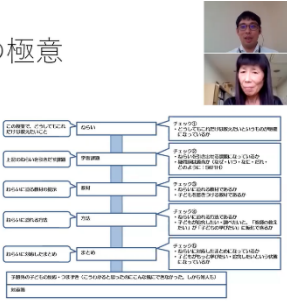
選択必修領域、選択領域「カリキュラムマネジメントと社会に開かれた教育課程の実現」、授業実践特講では、一部ビデオ会議システムを利用したリアルタイムオンライン受講を実施した。

【図5 選択必修領域リアルタイム講習】

単元・授業デザインの極意

- 子どもの姿を常に思い浮かべる
- 教育内容のエッセンスを掴む
- 先行/類似/参考事例を調べる
- 様々な素材を集め、教材化する
- 具体的なストーリーを構想し、段取りを決める
- やってみて、さらに考える！

教師は2度授業する  
授業づくりは“料理”と一緒に！



【図6 選択領域リアルタイム講習】

互いの強みでもって共創する共同体を築

Fun ! Fun ! Fun ! Fun ! Fun ! Fun ! Fun ! Fun ! Fun !



### (2) 講習一覧

第一回 2020年10月18日(日)9:00~12:10 ※プレミーティング 8:30~8:55

選択必修領域「育成を目指す資質及び能力を育むための主体的・対話的深い学びの実現に向けた授業改善」

担当講師 青木幸子、緩利誠

講習運営サポート 徳江舞美

第二回 2020年11月15日(日)9:00~12:10

選択領域「カリキュラムマネジメントと社会に開かれた教育課程の実現」

担当講師 緩利誠

講習運営サポート 徳江舞美

第三回 2020年12月6日(日)9:00~12:10

授業実践特講(事前指導)

担当講師 友野清文、青木幸子、緩利誠

講習運営サポート 徳江舞美

第四回 2020年12月20日(日)9:00~12:10

授業実践特講(実習・事後指導)

担当講師 友野清文、青木幸子、緩利誠

講習運営サポート 徳江舞美

## (2)タイムスケジュール

【表3 10月18日(日)実施 選択必修領域】

育成を目指す資質及び能力を育むための 主体的・対話的深い学びの実現に向けた授業改善（選択必修領域）				
時限	時間	分	講義内容等	担当講師
	8:25～	5	各自接続状況確認（8:30までに入室完了）	教育支援課
	8:30～8:55	25	プレミーティング	
	8:55～9:00	5	事務連絡	
1限	9:00～9:30	30	単元デザインに向けて ・動画の復習 ・教材の提示、段取りとポイントの説明	青木幸子 緩利 誠
2限	9:30～12:10 (途中10分休憩)	150	単元デザインの実践演習 ・単元/授業アイデアの発想 ・単元/授業アイデアの具現化 ・プレゼンテーション/ブラッシュアップ ・今後に向けて	青木幸子 緩利 誠

【表4 11月15日(日)実施 選択領域】

カリキュラムマネジメントと社会に 開かれた教育課程の実現（選択領域）				
時限	時間	分	講義内容等	担当講師
	8:50～	5	各自接続状況確認（8:55までに入室完了）	教育支援課
	8:55～ 9:00	5	事務連絡	教育支援課
1限	9:00～ 9:30	30	共創する学びへの招待 ・動画の復習 ・趣旨説明、段取りとポイントの説明	緩利 誠
2限	9:30～ 12:10 (途中10分 休憩)	150	共創する学びづくりへの挑戦 ・ビジョンを描く ・設計図を書く ・挑戦的宣言文を定める ・まとめ ※基本的に協同作業、プレゼンの機会もあり	緩利 誠

【表5 12月6日(日)実施 授業実践特講】

事前指導（授業実践特講）				
時限	時間	分	講義内容等	担当講師
	08:50～	5	各自接続状況確認（8:55までに入室完了）	教育支援課
	08:55～	5	事務連絡	
1	9:00～ 10:30	90	学習指導案の作成（講義）	友野清文 青木幸子 緩利 誠
2	10:40～ 11:50	70	学習指導案の作成（グループ別演習）	友野清文 青木幸子 緩利 誠
3	11:50～ 12:10	20	次回に向けて	友野清文 青木幸子 緩利 誠

【表6 12月20日(日)実施 授業実践特講】

実習・事後指導（授業実践特講）				
時限	時間	分	講義内容等	担当講師
	08:50～	5	各自接続状況確認（8:55までに入室完了）	教育支援課
	08:55～	5	事務連絡	
1	09:00～ 11:00	110	模擬授業の実践（グループ別実習） ※途中10分間休憩	友野清文 青木幸子 緩利 誠
2	11:00～ 11:50	50	模擬授業の振り返りと改善（グループ別演習）	友野清文 青木幸子 緩利 誠
3	11:50～ 12:10	20	総まとめ	友野清文 青木幸子 緩利 誠

## (3) 所見

オンラインでの実施だったが、受講者の講習に対する真摯な姿勢により、充実した学習時間を得られた。

## 8 その他

### (1) 希望者と個別面談

受講者の個々の悩みにあわせて担当講師がオンライン面談(Zoom)で対応。今の学校の状況や、教師の仕事、教師同士の関係、カリキュラムや地域連携などの質問に個別面談形式で回答できる体制を整えた。

### (2) コミュニティ活用

動画配信システムの機能「コミュニティ」では、トピックを立てることで複数の講師に質問できるほか、他の受講者の方と質問を共有することができる。質問の際にはコミュニティを活用するよう積極的に促し、講師と受講者間だけでなく、受講者同士がブラッシュアップできるような環境作りに努めた。

【図7 コミュニティ】

The screenshot displays a chat interface with three messages. Each message is contained in a white box with a light blue border. The messages are numbered 6, 7, and 8. Message 6 is from '友野 清文' (Tomino Kiyohito) and discusses English education. Message 7 is from a user with a greyed-out name and thanks the instructor for advice. Message 8 is from another user with a greyed-out name, thanking the instructor and mentioning English study.

6. 友野 清文 削除 2020-12-23 11:06  
様  
ご連絡ありがとうございます。日曜日はお疲れ様でした。  
英語教育は、様々な議論の蓄積があります。それを知るには、例えば以下のような本があります  
  
鳥飼玖美子『英語教育論争から考える』 みすず書房 2014年  
寺沢拓敬『「日本人と英語」の社会学』 研究社 2015年  
  
すぐに授業に役立つというものではありませんが、歴史を知らなければ、未来を考えることもできません。  
図書館にもあると思いますので、もしよろしければお読みください。  
また何かございましたらお知らせください。  
  
ともの

7. 削除 2020-12-24 21:42  
友野先生、ネットの検索サイトをいろいろ教えていただきありがとうございます。  
様、考えると答えが見つからない問題は多々でてきますね。 それでも考えていきたいと思います。  
  
本日申請書類を県教委に郵送しました。ちゃんと手続きされることを祈って。  
  
I wish you a Merry Christmas and a Happy New Year!  
  
様

8. 削除 2020-12-26 16:02  
友野先生、様ありがとうございました。  
これからも英語を勉強していきます。  
  
よいお年を！

【図8 本学担当講師によるサポート体制について】

## 昭和女子大学 教職リカレント教育オンラインプログラム受講者対象

### 本学担当講師によるサポート体制について



①プレミーティング	<b>10月18日（日）8:30～8:55（予定）</b> 選択必修領域のリアルタイム講義前の時間を使って、本学担当講師との顔合わせを実施します。 詳細は選択必修領域「受講のしおり」でもご案内しております。 ※プレミーティングへの参加は必須ではありません。
②希望者と個別面談	受講者の皆様の個々のお悩みにあわせて担当講師がオンライン面談（Zoom）で対応いたします。 今の学校の状況や、教師の仕事、教師同士の関係、カリキュラムや地域連携などを知りたい方はぜひご利用ください。
③その他ご相談について	本学動画配信システム上のお問い合わせ及び、メールでのご相談も引き続き承ります。

※本学担当講師によるサポートは2020年12月24日17:00をもって終了します。

個別面談のお申込み先

**kouza@swu.ac.jp**

1.氏名 2.候補日時①～③ 3.緊急時連絡先  
4.ご相談内容 5.添付ファイル（任意、相談内容を補う資料があれば添付してください）を書いてメールでお申し込みください。

※候補日時の記入例：  
10/15（火）午後など、午前・午後と幅を持ってご記入いただくと調整しやすくなります。  
原則、午前9時から午後17時まで。  
※ご希望の日程に添えない場合もごさいます。



昭和女子大学 教育支援課 教員免許状更新講習係

〒154-8533 東京都世田谷区太子堂1-7-57 ☎kouza@swu.ac.jp ☎03-3411-5117  
※メールでのお問い合わせを推奨しています。

### 3. 事業の成果と評価

以下のアンケート調査により受講者がどのような意見を持っているかを明らかにし、調査結果を事業の成果と評価とする。

#### ・教員免許状更新講習アンケート

調査期間 必修領域:2020年9月7日(月)～9月28日(月)

選択必修領域:2020年10月5日(月)～10月26日(月)

選択領域:2020年11月2日(月)～12月9日(水)

調査方法 Google フォーム

回収状況 必修領域:100%

選択必修領域:100%

選択領域:100%

#### ・教職リカレント教育オンラインプログラム 受講後アンケート

調査期間 2020年1月12日(火)～2021年1月25日(月)

調査方法 Google フォーム

回収状況 100%

#### 1 受講調査

(1)就職氷河期世代を対象とした教職に関するリカレント教育プログラムの中で、本学を選んだ理由を教えてください。

- ・新聞で講座を知り、昭和女子大学が一番最初に講座を開いてくれました。就職氷河期世代の私にとって勉強ができる機会とチャレンジを与えてくれた国と昭和女子大学に感謝です。これを無駄にしないよう精一杯頑張っていきます。
- ・出身校であったのでホームページをみたらたまたまリカレント教育プログラムを発見しこれはチャンスだと思い、申し込みました、
- ・仕事をしながら学ぶことを考えて、受講期間が比較的短いこと、オンライン授業であることが一番の理由です。たまたま、問い合わせしたときに開催されていたのと、オンラインとはいえ、自宅から比較的近い、身近な大学であったこと。
- ・出身校のため。
- ・近年の昭和女子大学のサポート力を信じていたので
- ・教員免許の休眠状態の解消方法がなく、休眠状態のままでは、教員になりたくても面接などにエントリーできなかったから。
- ・教職リカレントで一番最初に検索したのが御校だったため。

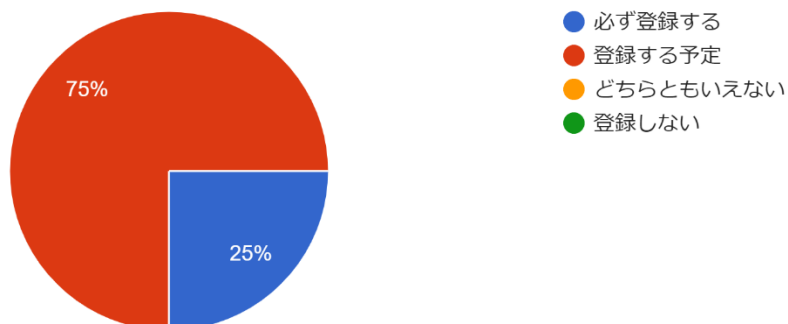


## 2 事業の成果

### I 臨時的任用リストへの登録について

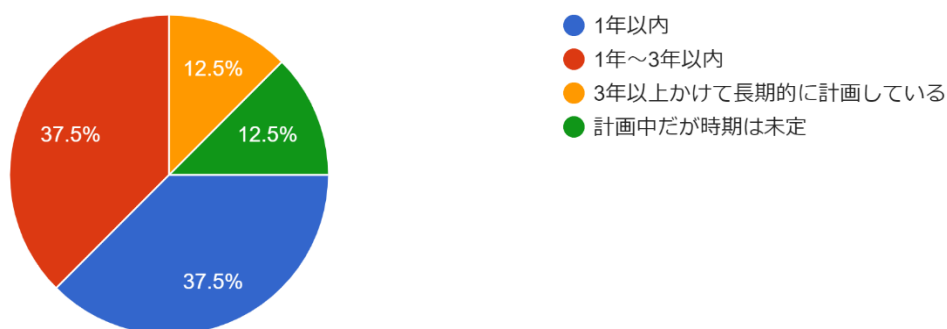
(1) 臨時的任用リストへ登録する予定ですか？

必ず登録する 25% 登録する予定 75%



(2) 臨時的任用リストへ『必ず登録する』または『登録する予定』を選んだ方へお伺いいたします。いつ登録する予定ですか？

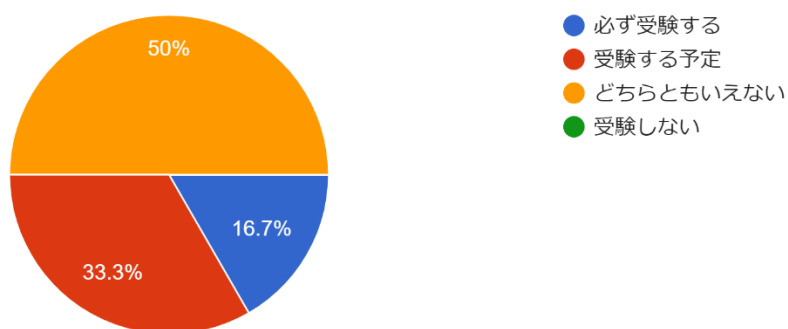
1年以内 37.5% 1年～3年以内 37.5% 3年以上かけて長期的に計画している 12.5%  
計画中だが時期は未定 12.5%



### II 教員採用試験について

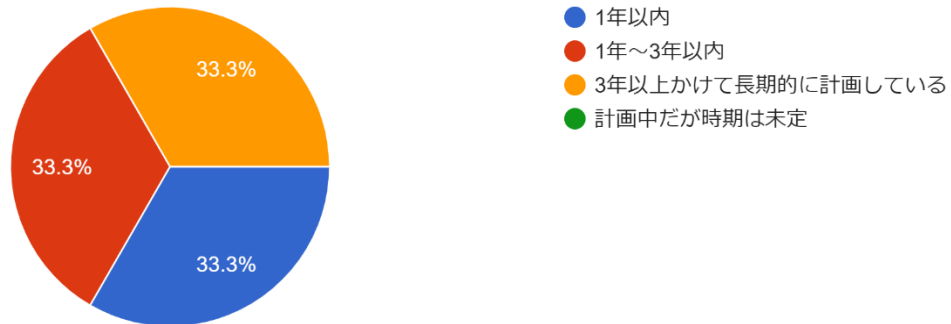
(1) 教員採用試験を受験する予定ですか？

必ず受験する 16.7% 受験する予定 33.3% どちらともいえない 50%



(2) 教員採用試験を『必ず受験する』または『受験する予定』を選択された方へお伺いいたします。いつ受験する予定ですか？

1年以内 33.3% 1年～3年以内 33.3% 3年以上かけて長期的に計画している 33.3%



(3) 教員採用試験について『どちらともいえない』または『受験しない』を選んだ方へお伺いいたします。受験しない理由を教えてください。

- ・勉強不足もちろんですが、自身の年齢を考慮すると難しいです。
- ・家庭の事情もあり、本格的に教師として働く時間的な余裕が無さそうだから。
- ・受験してみたいけれど、主婦業とフルタイムの教員として体力があるかどうか考えると躊躇してしまいます。

### Ⅲ 学習成果について

本学が所在する東京都が設定した「東京都公立学校の校長・副校長及び教員としての資質の向上に関する指標」のうち、「教諭(基礎形成期)」を学習成果測定の指標とし、その達成の程度をもって成果を測定する。

#### (1)【学習指導力について】

- ・学習指導案(単元指導計画)の作成および学習指導の基礎的・基本的なポイントは理解できた
- ・生徒の興味・関心を引き出し、個に応じた指導をより意識するようになった
- ・主体的な学習を促すことの重要性や必要性、いくつかの工夫例を理解できた
- ・学習状況を適切に評価し、授業を進めることの重要性や必要性、いくつかの工夫例を理解できた
- ・(模擬)授業を振り返り、改善方策を考え出すことができた

これらの点について、学ぶことができたと思うこと、今後の課題だと思うことを書いてください。

#### 【回答】

- ・主体的な授業の重要性、必要性を学ぶことができた。その必要性を満たせる学習指導力を身につけることが自分の課題です。
- ・先生方の講義は実践に即したものであり、授業における重要なポイントをわかりやすく説明して下さいました。ただ模擬授業に関しては、オンラインで授業することに適応できず自分の不甲斐なさに落ち込むばかりでした。
- ・教科書や、学習指導要項の内容を、いかに授業に反映していくか。オリジナリティと、教えなくてはならない知識のバランスのとり方が学んだことでもあり、また、今後の課題と感じました。
- ・学習指導案の作成についてはもっと指摘されてよいところがあったような気がします。それでも指導教授がアドバイスしてくださったことは気づいていなかったので大変参考になりました。
- ・講座の内容が大変興味を引くように作られていたので、こういう風に指導の仕方を考えるということが大切であることがわかりました。

- ・主体的な学習が重要であることが理解でき、取り入れたいと思いました。
- ・評価の仕方自体は自分が見聞きしたこと以外新しい方法はよくわかりません。
- ・模擬授業の後、家族と授業について話し合ったので、その時に改善方策を考えだすことができました。
- ・新しい学習指導要領とはどのようなもので、教育として目指す方向を考えるきっかけとなり非常に有意義な講座だった。オンライン授業という事もあり、受け身になってしまうのではないかという心配もあったが少人数だったことやディスカッションする時間もあり杞憂だった。

## (2)【生活指導力・進路指導力について】

- ・生徒と信頼関係を構築して、授業、学級での規律を確立することの大切さをより意識するようになった
  - ・生活指導上の問題に直面した際、他の教員に相談しながら解決することの重要性や必要性、具体例を理解できた
  - ・児童・生徒の状況に応じてキャリア教育を計画することの意識がより高まった
- これらの点について、学ぶことができたと思うこと、今後の課題だと思うことを書いてください。

### 【回答】

- ・色々な問題をチーム学校で対応していく重要性を学びました。またそれらを実践していきたいと思います。
- ・生徒と信頼関係を築くには、まず傾聴の姿勢が大切であること、そしてチームとしての学校や地域での支えが子供たちの成長に欠かせないこと、カリキュラムマネジメントの重要性等学ぶことができました。
- ・チームとして専門家との連携の大切さ、また、対話の重要性について学ぶことができました。
- ・生徒との接し方についてよく学ぶことができました。私の質問に指導教授が回答してくださったおかげでより詳しい知識を得ることができました。
- ・生活指導を複数の教員や専門家と相談して方向性を決めるやり方になっていると知り、ホッとしました。
- ・キャリア教育については一人一人と向き合えるかどうかにかかってくるような気がするので大変難しい事だと理解しました。
- ・指導という言葉からは、対象者の上に立って一手に課題解決を引き受けなければならないというようなプレッシャーを感じていたが、そうした思い込みの責任感是谁の為にもならず、問題解決に向けて速やかに、生徒たちに寄り添い、必要ならばより専門的な知識を持つ者に助けを求めることが大切であるということを学んだ。しかしながら専門家任せにするのではなく、普段からそうした方面への知識を深め、生徒・専門家との間に滑らかな関係性を築くことができるようにアンテナを磨いておきたい。

## (3)【教育課題に関する対応力】

- ・新しい教育課題の代表的なものについて、その内容を理解し、主体的に対応しようとする意識がより高まった
  - ・教職に対する自覚や使命感がより高まった
- これらの点について、学ぶことができたと思うこと、今後の課題だと思うことを書いてください。

### 【回答】

- ・クリエイトでポジティブな思考で課題に対応することを学びました。それらを実践していきたいと思います。
- ・現代の学校での諸問題(不登校、いじめ、差別等)についての考察や、子どもたちに対してどう問題提起していくか、心に響く言葉、授業をどう実践していくのかを学べたと思います。
- ・教育の抱える問題は多岐にわたっていて、しかも、時代や状況に応じてその内容が変わっていくことから、先生個人の力ではどうにもならないのではないかと、と思いがちでしたが、一人一人の思いや、信条が大切なのだ

な、と思えるようになりました。

- ・教育課題がたくさんあり、対応できるか不安です。 周りを見て学んでいきたいです。
- ・学ぶことの大切さを理解してもらいたいと思っています。

#### (4)【全体を通じて】

その他、家庭や地域といった学校外との連携・協働、チーム学校の一員としての組織運営への参画などを含め、本講座全体を通じて特に学ぶことができたと思うこと、今後の課題だと思うことを書いてください。

#### 【回答】

- ・チーム学校、co creative learning、を学びました。自分もその教育方法を実践していきたいと思います。
  - ・子供達にとってためになる授業、ワクワクする授業を行うことの大切さを教えて頂きました。現代の学校が抱える諸事情も自分が大学生のときは大幅に変化しているので、学び直しができてよかったと感じています。実際にこれで教壇に立つ自信が持てたとは言いがたいですが、教育になんらかの形で携わっていければと思っています。あとせめて10年早くこの講座を受けることができればよかったのにと正直思います。
  - ・今の学校や、教育の抱える問題は、学校だけでは解決できないことも多いことを再認識しました。また、先生方の負担の多さ、労働環境の改善も早急に改善するべき問題と思いました。そのためにも、自分になにかできること、関わるができないか、教育者としてだけではなく、地域の一員としても今後も考えていきたい、、、と思うようになりました。
  - ・子ども達の保護者が忙しいので地域の大人たちも子ども達を見守っていけるとよいということは常々感じていて、学校が橋渡しの役割も担えるというところで積極的にかかわっていきたくて思いました。
  - ・今の教育現場というものがこの講座を通じて理解できました。
- 学校教育から離れ、社会人という立場で改めて学校というものを広い視点、かつ最新の取組を整理して理解することができたのは、本講座のガイドがなければ不可能であった。そこから立ち返って、やはり中身の充実がなければ誰にとっても不幸な時間でしかないことを思い知らされた。学校生活という成長期の環境づくりの一環として、よりよい授業の時間を共有することで寄与できたら幸いであると考え。

### 3 事業の評価

#### (1)必修領域「教育の最新事情 2020」

- ・三人の先生方の授業がわかりやすく、丁寧で今の職場の中学校に照らし合わせて考えることができました。オンラインの画面だけではなく手元に紙の資料があるのもメモ書きができて助かりました。
- ・適度な課題提出を通して講習のねらいが提示され、講師の先生方の講義も興味深いものでわかりやすかったです。
- ・昨今の教育の状況をご教示いただき、大変勉強になった、ただし、知識として十分成果を得られたかは不明。(教育が奥深いものだと再確認し、難しいなあと思ったのも事実です)
- ・最新の教育事情はニュースなどで聞いていることしか知らなかったので大変役に立ちました。 世界の中の日本の状況も資料のグラフから読み取ることができました。 受講したことで教師の役割についても考えを巡らせています。
- ・最近の傾向については、よく理解できました。私は、教職に就いたことはないのですが、昔の自分の学校教育との比較しか出来ないのですが、昔から問題視されていることは、あまり変わっていないのかもしれない、と感じました。

・今現在の教育事情や研究動向を学べたことは、とても有意義であったと思います。

(2) 選択必修領域「育成を目指す資質及び能力を育むための主体的・対話的深い学びの実現に向けた授業改善」

・ドラマワークやホット・シーティングなどの授業の具体的事例を挙げて、主体的・対話的学びの重要性についてわかりやすく説明していただき、興味深く学ぶことができました。

・座学で知識を得た後、アドバイスをもらいながらラフなティーチングプランを考えることができました。

・実践的な授業づくりの講義は大変興味深く拝聴することができました。実際に顔合わせできたことも有意義でした。

・リアルタイム授業において前段階の講座内容が結実され、非常に充実したものであった。

・実際に教員としてのキャリアがないので、教員としての技能に関して十分成果を得られたとは思いませんが、最新の教育活動や指導法など学ぶことができるのはありがたいです。

(3) 選択領域

I 「学校における組織的対応とチーム学校の実現」

・学校関係者評価委員会の報告書をじっくり見たことによって問題点が読めるようになったことが嬉しかったです。

・友野先生のポイント指摘がボリュームの多さ故に散漫になりがちな学習事項を引き締めて下さっていた。

・チームとしての学校の在り方や今後の改善方策について、適切な資料を用いて丁寧に講義されていたので理解できたと思います。

・『チーム教育』というのが、あまりに幅が広いテーマで、学校内のチーム、学校と専門家のチーム、学校と地域のチーム…など、が入り混じってしまい、自分の中でなかなか整理が出来なかった。

・現在の学校の様子がよくわかりました。教員がどうすれば子供と向き合い力を発揮できるかを深く考えることができました。

II 「教育相談の理論と実践」

学習意欲のわく授業のあり方を終始体感することができた。

毎回の講義にワークシートがあるのは大変でしたが、色々なことを振り返るきっかけになりました。ただ個人的に、それが今後役に立ってるのか…は不安です。

どんどん次の動画をみたいという気持ちになりました。いじめ、不登校、差別の問題についてわかりやすくまとめであり、より理解できました。

現代の学校が抱える諸問題についての授業はどれも興味深く、レッスンごとに細かく課題が設けられていて、レジュメ、資料も充実した内容でした。

・アクティブリスニングについては自己を振り返ることができ今後の参考になります。

・教育相談の理論と実践について教師に必要な資質や技術を丁寧に説明されていて、新たな気持ちで考察できたと思います。

III 「カリキュラムマネジメントと社会に開かれた教育課程の実現」

・大事なポイントを理解しやすく解説してくれて、納得感をもって次の学習に進めることができた

・リアルタイムの講義があり、参考になりました。

・最初はどうカリキュラムマネジメントをして良いのか戸惑いましたが、zoom でのグループワークを経てやり方がわかりました。

- ・講義内容はとても興味深く、授業資料も明確でわかりやすいものでした。
- ・カリキュラム・マネジメントをどう創り上げていくのか、リアルタイム講義でも学ぶことができよかったです。
- ・カリキュラムに頭を悩ませるのではなく、ころのおどりをきっかけに学びを深めていくという視点が、教員という職業の魅力を改めて感じさせた。
- ・子どもたちが面白いと感じ、ためになる授業をするために必要なものは何かを深く考えさせられた講義内容でした。

#### (4) 教員免許状更新講習全般を通して

- ・勉強する機会を与えてくれて感謝しています。
- ・先生方の講義はどれも楽しく(興味深く)拝聴させていただきました。
- ・講習を受ける前は資料をもらった段階で資料に目を通してみても、よくわからなくて私に理解できるだろうかと不安でしたが、講習を受けたら理解できたのでよかったです。

#### (5) 教員採用試験対策特講

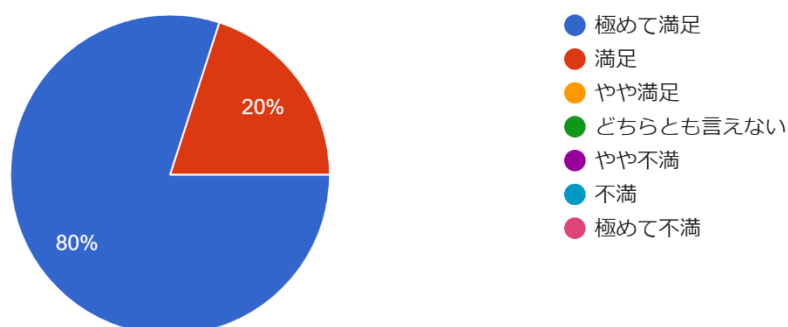
- ・まだ半分も動画をみていないのですが、動画と手元にある資料がマッチしていないため、少しやりにくいです。添削問題をやるにしても一問一問自分で調べて回答しています。そういうものかもしれませんが、時間がかかっています。

#### (6) 授業実践特講

- ・非常にためになりました。zoomを使った授業は非常に有益であったと思います。
- ・オンラインでの模擬授業はどう対応しているのかわからず難しかったです。
- ・教育実習以来の授業でしたのでなんども練習しました。そういう機会をもたせていただいて感謝しております。
- ・同じような目標をもつ受講生同士の交流もできて、よかった。

(7)昭和女子大学 教職リカレント教育オンラインプログラム全体に対する満足度

極めて満足 80% 満足 20%



(8)その満足度を選んだ理由を教えてください。

- ・先生達、スタッフの人達に活力がありプロである。私は関西の大学出身ですが、東京の大学とはこうゆうものかと感心しました。私の母校もけっして悪くないですが、昭和女子大学は素晴らしいと思います。ありがとうございました。
- ・すべてオンライン授業で行い、申し込み等も郵送でできたことで、今回受講することができました。その点において大変感謝しております。そして授業の内容も濃くて大変充実した時間を過ごすことができました。
- ・仕事をしながらオンライン授業視聴に加えて、その都度課題を提出するのは大変でしたが、先生方の興味深い講義のおかげで乗り越えられたと思います。オンラインだからこそ遠方の大学の講座を受けることができ本当に良かったです。
- ・まさに、自分のニーズ(いわゆる、「ペーパー教員」の再勉強)にぴったりの内容だったから。
- ・オンライン授業とは思えないクオリティでの授業動画で大変に分かりやすく、何回も聞き直せたり、ゆっくりプリントに目を通す時間も作ることができた。また、仕事などと両立させるために通学時間のないオンラインという形態が非常に有意義であった。少人数だったこともあり先生方と直接対話できたことは貴重であった。また、同じ目標にむかっている人たちと出会えたことも勉強をすることの励みとなった。
- ・講師陣の力量・熱量に圧倒されつつも、常に寄り添ってご指導くださり、大変に充実した時間を過ごすことができたので。またコロナ下でのオンライン授業の在り方について、実際に生徒という立場で受講できたのは、今後の参考にもなる貴重な経験であった。

## 4. 実施により得られた効果・課題・改善点等

### 1 運営面での効果・課題・改善点等

#### I 効果

本プログラムの実施による効果として、1) 臨時的任用リストへの登録予定者 100%、2) 教員採用試験受験予定者 50%、3) 教員以外の学習サポート職の提示を挙げる(1)の成果の詳細に関しては、事業の成果を参照のこと)。2)の教員採用試験受験予定者については追跡調査を行う予定である。加えて3)の試みにより、教員以外での就業の推進も可能であると考えられる。

全講座オンライン受講の不安もあったが、初回ガイダンスにより全員が問題なく講座を受講できた。受講期間が短かったこともあり、相当詰め込む形となったが、定期的にサポートを行った効果もあり、現時点までの受講完了率は100%と、目標として設定した受講完了率80%を上回る結果となった。今後も必要に応じて柔軟に受講者をサポートしつつ、継続して取組を進める。

#### II 課題・改善点等

第一に、広報活動の課題について述べる。今回の受講者数は、目標として設定した上限80名には及ばず、8名での実施となった。関係諸機関への募集要項やパンフレット送付、講習情報のWEB掲載等の広報活動を行ったが、広報効果は確認できなかった。このような制度があると広く社会に認知されていない現状もあり、大学で出来る広報には限界を感じた。ターゲットである就職氷河期世代に届く広報手段を検討する必要がある。

第二に、教員採用試験の受験予定者が50%である問題を挙げる。基本的には教員として働く意思のある者が受講することが望ましいが、本プログラムの受講により教員の仕事の現状を知って、自分には難しいという声もあり、受講者の不安を解消できるかが今後の課題となる。

第三に、受講者が増えた場合にも今回と同じ指導を実施できるのかという疑問を提起したい。今回は少人数での実施だったことで、一人ひとりに対する細やかな指導が評価された。

しかし、人数が増えると画一的な対応になってしまう恐れがあり、この点を考えると、受講者が増えた場合の対処を検討しておく必要があるだろう。



## 2 講師視点の効果・課題・改善点等

### I 効果

- ・学習指導については、講義と模擬授業実践を通して、学習指導要領の内容、生徒の関心・意欲を踏まえて、生徒が主体的に参加する授業の重要性が理解された。
- ・生徒指導については、生徒の話を十分に聞く「傾聴」、学校内外での様々な人との協働・連携により行うことの必要性を考えることができた。
- ・教育課題などについては、現在の教育課題の多様性、学校(教員)が果たすべき役割と地域・社会全体での取り組みのあり方について知ることができた。

### II 課題

#### (1) 運営面での課題

- ・課題の提出方法や動画の掲示期間について、大きな問題はなかった。

#### (2) 講習の課題

- ・講座開始時に受講生の受講動機や現状、目標・ニーズを把握することが必要である。
- ・動画配信とリアルタイム講座との組み合わせについて上記を踏まえ、受講生の希望を考慮して決める。

### III 改善点

- ・講座開始時に個別の面談を行い、受講動機やニーズを確認した上で、目標を設定する。
- ・内容・方法については、動画配信とリアルタイム講座の組み合わせを含めて、受講生の希望も勘案し計画する。

### IV 今後の活動への展望

この事業は、教員免許状更新講習に「例外規定」を設けて教職リカレント教育を行い、教職に就くための支援を行うことを目的とし、現職教員を主な対象とする更新講習の枠組みを用いているが、目的に照らして有効であるかどうか検討する必要がある。今回は現職教員向けとは分けて実施したが、現職教員向けに混ざっての実施も可能か今後検討したい。

事業が継続される場合、文部科学省などによる広報や情報提供の強化が必要である。さらにこの講座修了者に対して、教員採用試験における何らかの配慮を行うことも考えられる。

## 5. 広報

### 1 広報活動の概要

#### (1) 広報期間

2020年5月1日～2020年8月31日

#### (2) 募集期間

2020年7月16日～2020年8月31日

### 2 広報先一覧

#### (1) 募集要項、パンフレットを送付

- ・ハローワーク(全国の就職氷河期世代窓口を有する各所(47都道府県))
- ・教員免許取得可能な通信制大学(23大学)
- ・三茶お仕事カフェ

#### (2) WEB掲載

・昭和女子大学「社会的支援 教職リカレント教育」[https://univ.swu.ac.jp/contribute/co\\_life/kyoshoku-recurrent/](https://univ.swu.ac.jp/contribute/co_life/kyoshoku-recurrent/)(2021.1.18 閲覧)

・昭和女子大学 Facebook <https://ja-jp.facebook.com/ShowaJoshi/>

・昭和女子大学 Twitter [https://twitter.com/swu\\_official](https://twitter.com/swu_official)

・昭和女子大学 光葉同窓会「教職リカレント教育オンラインプログラムのお知らせ」  
<https://alumni.swu.ac.jp/news/other/2020/12558>

・昭和女子大学 現代教育研究所「教職リカレント教育オンラインプログラム開催」

<http://iome.jp/%e6%95%99%e8%81%b7%e3%83%aa%e3%82%ab%e3%83%ac%e3%83%b3%e3%83%88%e6%95%99%e8%82%b2%e3%82%aa%e3%83%b3%e3%83%a9%e3%82%a4%e3%83%b3%e3%83%97%e3%83%ad%e3%82%b0%e3%83%a9%e3%83%a0%e9%96%8b%e5%82%ac/>(2021.1.18 閲覧)

・SENSEI イベントポータル「【全講座オンライン開催】教職リカレント教育オンラインプログラム〈文部科学省委託事業〉」<https://senseiportal.com/events/59334>(2021.1.18 閲覧)

・こくちーずプロ「【全講座オンライン開催】教職リカレント教育オンラインプログラム〈文部科学省委託事業〉」  
<https://www.kokuchpro.com/event/9cce401aa2ad2c719f23130eaeda8862/>(2021.1.18 閲覧)

・マナパス「〈文部科学省委託事業〉教職リカレント教育オンラインプログラム」  
<https://manapass.jp/portal/course/detail/8/758787>(2021.1.18 閲覧)

・マナパス「特集:就職氷河期世代支援と学び」<https://manapass.jp/sp/005.html>(2021.1.18 閲覧)

【図9 募集要項-表紙】



**〈文部科学省委託事業〉  
教職リカレント教育  
オンラインプログラム  
募集要項**

開講期間	2020年9月～12月
講座内容	教員免許状更新講習を含む合計7講座をオンラインで実施
受講料	60,000円 ※減免措置対象者は30,000円
対象者	受講資格を有する者（2P参照）※性別不問

お問い合わせ先

昭和女子大学  
教学支援センター教育支援課 教員免許状更新講習係  
〒154-8533 東京都世田谷区太子堂 1-7-57  
TEL : 03-3411-5117 E-mail : kouza@swu.ac.jp



## 【図 10 募集要項-参考ページ】

### 1. はじめに

いわゆる就職氷河期世代が大学を卒業された時期、教師になるのは大変難しい状況でした。昭和女子大学は、改めて教壇に立つことを目指す方をサポートする講座を開講します。現代の教育現場に必要な力量を主体的・実践的に身につけ、子どもたちとともに歩もうとする方のご参加を心からお待ちしています。

昭和女子大学 総合教育センター 教授 友野 清文

### 2. 昭和女子大学 教職リカレント教育オンラインプログラムについて

昭和女子大学は文部科学省からの委託を受け、中高の教員免許状を持つものの現在教職に就いておらず、今後学校現場で教員として活躍を目指したい方を対象に、これからの時代に求められる資質・能力を培う実践的指導力の基礎を集中的に育成するための講座をオンラインで開講します。

当プログラムは「教員免許状更新講習」(5講座) および「その他の講座」(2講座) の合計7講座で構成され、全講座の受講を必須といたします。

### 3. 受講資格

次の条件を全て満たす方

- 中学校又は高等学校教諭の普通免許状を所持している方（教科不問）
- プログラムの受講後に教員採用試験の受験や臨時的任用リストへの登録など学校現場で勤務する意思のある方
- 教員未経験 又は 教員経験はあるものの学校現場から長く離れている方
- ウェブカメラ・マイクを使用できる PC・ネットワーク環境をお持ちの方

### 4. 募集人数

80名

### 5. 講座実施について

#### ○ 講習期間

9月～12月

※詳細は後日受講者に通知します。

#### ○ 実施方法

インターネットを利用したオンライン講座を、次のいずれかの方法で実施いたします。

- **タイプA**：本学動画配信システムを利用した動画視聴
- **タイプB**：タイプAを基本とし、一部 Zoom（ビデオ会議システム）を利用したリアルタイムオンライン受講

【図 11 パンフレット】

〈文部科学省委託事業〉


# 昭和女子大学

## 就職氷河期世代を対象とした 教職リカレント教育 オンラインプログラム

2020年9月7日(月)より開講

- 全7講座をオンラインで実施
- 対象：中高の普通免許状を所持している方(教科・性別不問)

時事通信出版局  
教員採用試験  
対策教材使用  
じぶんゼミ合格ワンパック講座  
教職オンライン講座  
添削10回付き  
教職教養コース2022年版  
※画像は2021年版です



### 教職リカレント教育オンラインプログラムとは？

中高の教員免許状を持つものの現在教職に就いておらず、今後学校現場で教員として活躍を目指したい方を対象に、実践的指導力の基礎を集中的に育成するための学び直し講座をオンラインで開講します。

「教員免許状更新講習」(5講座)および「教員採用試験特講」「授業実践特講」の合計7講座で構成され、全講座の受講を必須といたします。

このプログラム事業は、昭和女子大学が文部科学省から事業委託され実施します。

### 講習内容※全7講座 (9月～12月)

1 最新の教育事情2020	教員に求められる知識・態度を習得する。
2 育成を目指す資質及び能力を育むための主体的・対話的深い学びの実現に向けた授業改善	これまでの授業の問題点や改善点を受講者自身の経験を通して紐解きながら、これからの時代にふさわしい学びのあり方やつくり方を考えていく。
3 学校における組織的対応とチーム学校の実現	「チーム学校」のねらいと課題を知ることを通して、教員のあり方を考究する。
4 教育相談の理論と実践	スクールカウンセリングと生徒への援助の技術を学習・習得する。
5 カリキュラムマネジメントと社会に開かれた教育課程の実現	カリキュラムづくりの方法を取り上げ、一部のプロセスを体験し、要点の理解を図る。
6 教員採用試験対策特講	教員採用試験対策に実績のある「じぶんゼミ合格ワンパック講座教職教養コース」を教材とし、採用試験演習を行う。
7 授業実践特講	学習指導案の作成や模擬授業を行い、指導技術の向上を図る。

### Web受講申込期間

2020年7月16日(木)～8月31日(月)17:00 ※募集期間を延長しました。

●受講料：全7講座(パッケージ価格) **60,000円** ※条件付減免制度対象者 **30,000円**

[お申込みはこちら](#)

昭和女子大学

教育支援課 教員免許状更新講習係

[https://univ.swu.ac.jp/contrib/co\\_life/kyoshoku-recurrent/](https://univ.swu.ac.jp/contrib/co_life/kyoshoku-recurrent/)

〒154-8533

東京都世田谷区太子堂1-7-57

✉[kouza@swu.ac.jp](mailto:kouza@swu.ac.jp)

☎03-3411-5117

※メールでのお問い合わせを推奨しています。



## おわりに

本事業は2020年3月に公募要項が出され、書類提出期限が同月下旬であった。教育支援課から総合教育センター教職課程担当教員に相談があり、応募することとした。「はじめに」でも触れたように、本学は教員免許更新講習を10年以上にわたって実施しており、総合教育センター教職課程の教員も、実施に関わってきたため、ノウハウの蓄積があった。また本学の卒業生を含めて、教職を志す人への支援の意義についても理解していた。

更新講習30時間に加えて、採用試験対策と「授業実践特講」での模擬授業実施としたのも、学生に対して行っている教員採用試験準備の指導の中から、これらの必要性和重要性を考えたためである。

ただ実際に講座を実施するにあたっては、懸念も大きかった。何よりもすべてオンラインで行うという点である。2020年度の従来の更新講習もオンラインであったが、3人で30時間分というのはかつて経験したことがなく、長時間にわたる講座を、しかもオンラインですることが可能かどうか、正直なところ分からなかった。模擬授業もオンラインでどのように行うかについても、様々な検討が必要であった。

受講生が8名であったことは、改善すべきことになるかもしれない。しかし講師としては、少数であったため、きめ細かな個人指導が可能となった。またリアルタイムで行った際には、受講生同士の話し合いや情報交換も行うことができた。

受講生の中には、学校現場で働いている方や親として学校と関わっている方もおられたため、ご自身の体験と引き合わせて考えることができた面もあった。

そして何よりも、多忙な中、長丁場の講座を修了された受講生の熱意に敬服する。これが教職への道の第一歩となることを心から期待している。

令和3年1月

昭和女子大学  
総合教育センター教授 現代教育研究所 所長  
友野 清文

2020年度 昭和女子大学 教職リカレント教育オンラインプログラム

2021年2月発行

発行 昭和女子大学 教学支援センター教育支援課

〒154-8533 東京都世田谷区太子堂1丁目7-57

